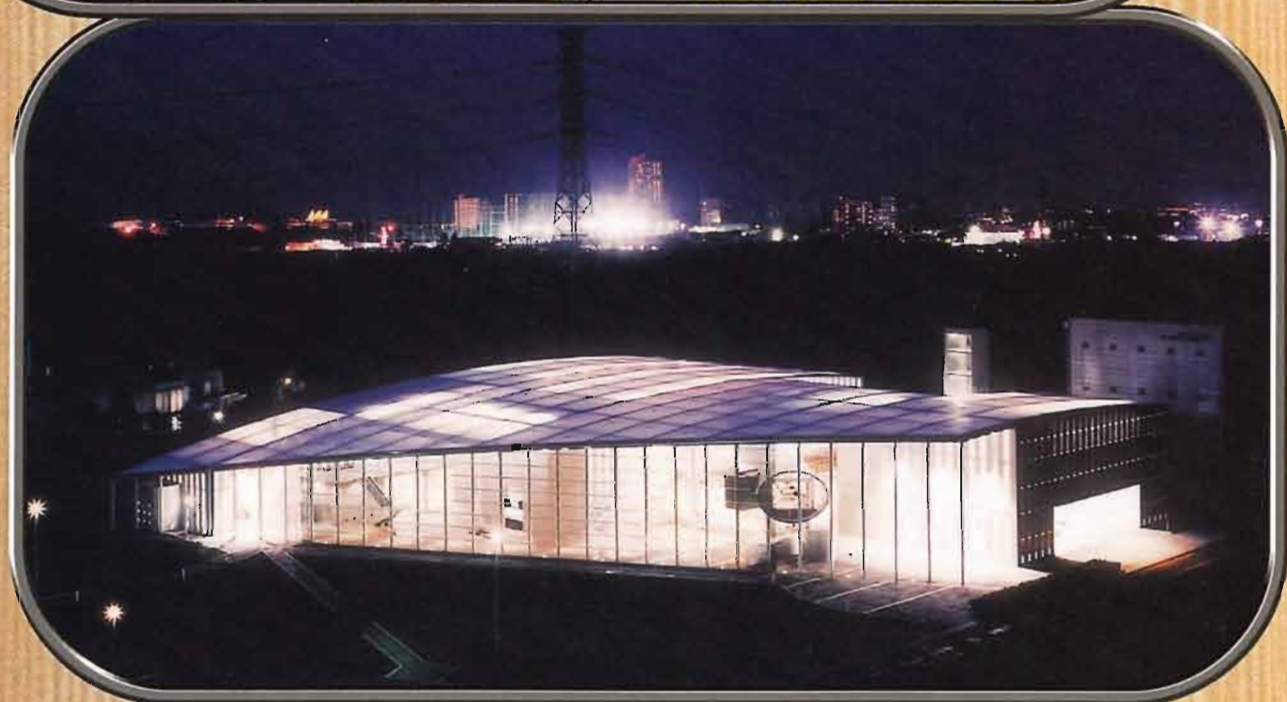


2002年 第9回  
千葉県建築文化賞  
表彰作品集



主催：千葉県 共催：(社)千葉県建築士会

写真 上：幕張ベイタウン・コア (提供 (株)設計・計画 高谷時彦事務所)  
下：日大テクノプレイス15 (提供 日本大学理工学部 海洋建築工学科)  
地：山武杉の銘板 (提供 千葉県木材市場協同組合)



# 千葉県建築文化賞について



千葉県知事 堂本 暁子

平成14年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞はすぐれた建築物を表彰することにより、建築文化や居住環境に対する意識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に平成6年度に創設いたしました。

第9回目となる今年度は71点に及ぶ多彩な作品が寄せられましたが、選考委員会の厳正な選考に基づき、建築文化賞5点及び建築文化奨励賞4点を決定いたしました。

受賞作品は、周囲の景観に調和し、利用者の要望を重視した魅力的な複合機能施設、誰もが安心して心豊かな生活ができるようにユニバーサルデザインを意識した園舎、自然の光や風を利用した明るく開放的な実験棟、地元の木材を使った人と環境にやさしい展示館など、いずれも2002年の千葉県建築文化賞にふさわしい質の高い先導的な建築物です。

関係の皆様の情熱と新しい発想が込められたこれらの建築物は、地域社会の中で親しまれ、より良い街づくりの推進と今後の建築文化の発展に貢献するものと期待しております。

県としましても、引き続き『主役は県民600万人のちば』を合言葉に、600万県民の一人ひとりが快適で充実した生活を送ることができる環境の整備に努め、個性豊かな質の高い文化が創造できる千葉県を、県民の皆様と一緒につくっていきたいと思っています。

結びに、受賞者の皆様の今後ますますの御活躍をお祈り申し上げますとともに、選考委員や応募された方々、共催団体など関係の皆様の御協力に深く感謝申し上げます。

平成15年 3月

1

目次	千葉県建築文化賞について	… 1	選考経過と総評	… 2
	幕張ベイタウン・コア	… 3	東金市保健福祉センター	… 4
	山武みどり学園	… 5	日本大学理工学部テクノプレース15	… 6
	木と住まいの情報館 モクイチ	… 7	佐原の家	… 8
			かずさ4号公園レストコーナー・トイレ	… 8
	中庭の家	… 9	応募（推薦）建築物一覧	… 10
	麗澤幼稚園	… 9	建築文化賞選考委員会	… 10

# 建築文化賞は5点・同奨励賞に4点を選定

## (選考経過)

第9回千葉県建築文化賞は7月の委員会で募集要領を定め、平成14年8月初旬から9月末まで応募を受け付け、総数71点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

応募総数は前回より17点減少したが、きびしい社会経済情勢の中、幅広く多様な作品をお寄せいただいた関係者の熱意に深く感謝したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門7点、

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

高齢者・障害者部門3点、環境部門4点を選んだ。

次いで11月下旬と12月上旬の3日間をかけ、現地訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。

第2次選考は平成15年1月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議をかさねながら優秀な建築物を選んでいった。

その結果、建築文化賞5点、建築文化奨励賞4点を表彰の候補作品として選定した。

(3部門の対象)	(選考の過程)	応募点数	(1選考) 現地調査	(受賞作品選定)	
				建築文化賞	同奨励賞
景観に配慮した建築物		47	7	2	2
高齢者・障害者等に配慮した建築物		10	3	1	1
環境に配慮した建築物		14	4	2	1
(合計)		71	14	5	4

## 景観に配慮した建築物

応募47点の多くは、建築としての質の高さと景観形成への注意深い配慮を感じさせるものであった。

その中でも、今回は福祉施設に質の高い作品が目立った。

「幕張ベイタウン・コア」は、中庭街区型の集合住宅が並ぶニュータウンの中で、街路に対して開放的な表情をもつコミュニティ施設のあり方が共感と呼んだ。「東金保健福祉センター」も新しい住宅地の中に立つ公共施設であり、曲線や暖かみのある色彩を用い、周辺環境となじんだ景観を生み出している点が評価された。この結果、この2点が建築文化賞とされた。

奨励賞の「佐原の家」は、伝統的な街並みとの調和をはかる建築主と設計者の心意気を感じられ、「かずさ4号公園レストコーナー・トイレ」は小さな作品だが、敷地環境と一体化した景観づくりに配慮している点が評価された。

## (総評)

### 高齢者・障害者等に配慮した建築物

今回、この部門への応募は10点と、前回の半分近くに減少した。残念なことだが、これは必ずしも質の低下を示すものではなく、景観部門の建築文化賞を福祉施設が受賞しているように、高齢者や障害者への配慮が普及し、建築的な質の高さと両立するようになってきたことの証と考えられる。

建築文化賞とされた「山武みどり学園」は、地域に溶け込む施設づくりを目指し、リズムカルな格子を基調とした明るい外観をもっている。現地調査では、入所者の明るい表情が印象的であった。

奨励賞の「中庭の家」はハンディのある子供を自宅で介護している両親と設計者の緊密な連係が、きめ細かな住まいづくりに結実している点が評価された。

## 環境に配慮した建築物

この部門でも応募点数は減少したが、建築的な質の向上が顕著であった。

「日本大学理工学部テクノプレイス15」は、複合的な実験施設を膜構造の大屋根とガラスの風除けで包み込み、省エネルギー環境の実現を試みたものである。「風と光」のコンセプトのとおり、軽やかで明るく、快適な建築である。「木と住まいの情報館 モクイチ」は、地元の材料と地元の職人を使った木造建築という基本的な方法で環境への配慮を示すとともに、金物を使わない木造トラス、ドラフト効果を利用した換気など、環境に配慮した技術的工夫を凝らしている。この結果、この2点が建築文化賞とされた。

奨励賞の「麗澤幼稚園」は緑豊かなキャンパスの一角に建ち、子供たちの健全な発育にきめ細かく配慮した環境を実現している点が評価された。

## 選考の基準

- 千葉県内において、平成9年4月1日から平成14年3月31日までに完成（増築、改築、リフォームを含む）し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物で、この表彰の趣旨にそっているもの。
- 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物であり、次のいずれかに該当するもの。
  - ① 地域の特性や周辺の環境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
  - ② 安全性・快適性・利便性に優れ、高齢者や障害者等がいきいきと豊かな生活が送れるように十分な配慮がなされ、社会活動への参加が容易に出来るような環境整備がなされているもの。
  - ③ エネルギーの省力化や資源の高度な有効利用を図ったり、地域生態環境と親和させるために、自然を取り入れた建築の工夫がなされるなど、人と環境に対して安全安心で健康快適な室内環境の性能について配慮がなされているもの。
- 建築基準法等の各法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。



# 建築文化賞

景観に配慮した建築物

住民と創る音楽ホール・公民館・図書館等

## 幕張ベイタウン・コア

建築主：千葉県企業庁  
設計：株式会社 設計・計画 高谷時彦事務所  
施工：新日本建設株式会社

所在地：千葉市美浜区打瀬2-13



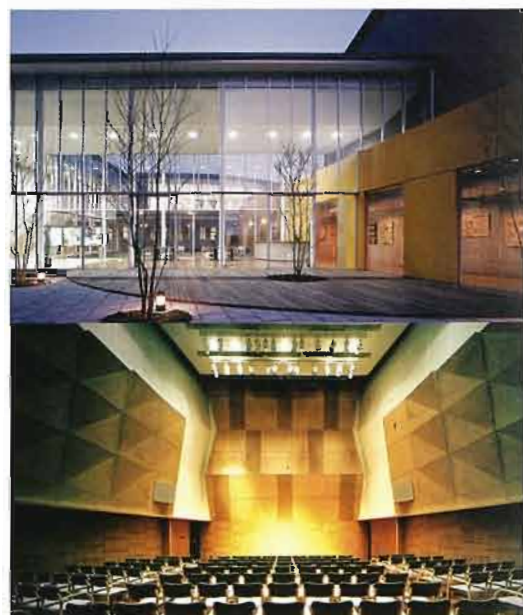
プロムナード側全景、エントランスと音楽ホール（撮影 小川泰祐）

幕張ベイタウンは、わが国でヨーロッパ的な街路型のまちづくりをめざした数少ない事例の一つである。元来そこにあった都市の文脈や構造をベースに重層させていくそのオリジナルのありようとは異なり、幕張では全く新しい白紙の上にそのような都市空間を、しかも短時間のうちに構築することが前提であった。明快な図と地の関係によって構成されるこの街路型のまちづくりは、それゆえに大きな関心を集め、これまでさまざまな議論が展開されてきた。

このコミュニティーセンターとしての〔ベイタウン・コア〕は、まさにその熟成過程で極めて誠実に、そして極めて民主的に企画され、設計され、建設され、そして運営されている。

その背景にあるのは、幕張ベイタウンに着実に育ちつつある「市民社会」の多様で活発な活動と、そしてわが町のアイデンティティを強烈に感じている住民達による参加のプロセスの力である。その過程で顕在化する利害の衝突を越え、献身的に協働した建築家の態度は、決して凡庸な建築の結果に陥ることなく、その透明でヒューマンなたたずまいの中に垣間見ることができる。小さくも稀有なコンサートホールの実現に見てとることができる。

白紙の上のまちづくりであるがゆえに、「地」にあたる空間はいまだにややとりとめがない。特に隣接する小公園との連



◀ ラウンジの向こうに中庭  
図書館の円形壁を望む

◀ 小さいが快適で  
響きの良い音楽ホール

続性や、囲み感が弱い中庭的な外構が今後どのように設けられ、使われ、熟成してゆくのか、不安と期待が交錯する。

しかし、プロセスが作り上げた継続的な力は、そうした課題をやがて解決してゆくことだろう、そう思わずにはいられないこの市民の建築の可能性に多くの票が集まった。（岩村和夫）



建築主：東 金 市  
 設 計：株式会社 日本設計  
 施 工：鹿島建設株式会社東京支店

人と環境にやさしい『ふれあいセンター』

所在地：東金市田間421

## 東金市保健福祉センター



緑豊かな丘陵地を背景にして、二つのヴォールト状屋根が呼応してリズムカルなスカイラインを映し出し、分節された建物は外部空間の緑と一体となり、住宅街の中でも違和感を覚えさせないスケールに抑えられている。

外壁に使用された珪藻土は房総の土の色を彷彿とさせ、周囲の緑とも調和して落ち着いた景観を形成している。

建物はH型プランとし、保健部門棟と福祉部門棟をそれぞれ東西に並列させ、中央部にエントランスホール及び交流スペースを配置した、きわめて分かりやすい平面計画である。

中央の屋外広場に面した外壁はすべてガラススクリーンを採用し、広場を介して各室から人の動きが互いに感じとれるような開放的な空間を構成している。

できるだけ吹き抜け空間を確保して、上下階を有機的に連続させ、エントランスホールに入ると、建物全体が一望に見渡すことができる。市民にも利用しやすく、管理者側からも目が行き届くように配慮されている。

主要諸室の天井は屋根の形をそのまま生かした円弧状とし、欄間からのハイサイドライトによって、明るく快適な室内環境が確保され、仕上げ材も木や珪藻土・タイル等の自然素材を多用して人にやさしい健康建築を追求している。

ペアガラスやルーバーを使用して熱負荷の軽減を図るとと



▲センター正面、緩やかなスロープ（撮影 K.K. 川澄建築写真事務所）  
 ◀ けやきと芝生の広場  
 ▲中央にあるふれあいロビー

もに、雨水の再利用等によって省エネ、省資源対策にも努めている。

環境への配慮、障害者への配慮、災害時の対応などで、総合的にバランス感覚の整った保健福祉施設として高く評価できる作品である。（明智克夫）



# 建築文化賞

高齢者・障害者等に配慮した建築物

建具の工夫が生きるさわやかな障害者施設

## 山武みどり学園

建築主：社会福祉法人 ひすいかい 翡翠会  
設計：株式会社 榎本建築設計事務所  
施工：戸田建設株式会社 千葉支店

所在地：大網白里町大網5347



水平垂直のグリッドを基調とした外観（撮影 小島広行）

穏やかな田園風景の中に、2階建てに抑えた低層の建物が、伸びやかに配置されている。木ルーバーやアルミサッシュの内側に立てられた可動の木製建具が、柔らかな表情をつくり、「施設」建築の殺伐さを全く感じさせない。

しかし、この建築が本当に評価されなければならないのは、そういう次元のことでないと、学園内を案内されてつくづくと感じさせられる。

成長期にある知的障害者に対する細やかで深い配慮が、たとえば引き戸を使って、自分でプライバシーがコントロールできる個室と廊下の関係、各グループごとに設けられたホームベースなど、随所に見てとれる。

窓側につけられた木製の建具も入園者が簡単に外との関係を調整できるためのものであった。

作業指導室は多目的ホールでもあり、多重に使用され、時には地域の人々の利用もあるという。この施設が地域に好意的に受け入れられ、交流もあるというのはこの建築の力でもあり、もちろん実際学園の運営にあたっているスタッフの力でもある。こうした施設が近隣と良好な関係を築いている例は残念ながら、稀である。このような山武みどり学園のあり方を見るにつけ、設計者と学園の担当者の積み上げてきた信頼関係の大きさがしのばれる。



◀ 木製フラッシュユウの開閉により変化する表情



◀ 明るく開放的な共用空間の創出

必ずしも潤沢とは言えない予算で、洗練されたしかもさわやかな空間がそこにはある。子供たちの生き生きとした表情が、なによりもこの建築の価値を証明している。（篠原聡子）



建築主：学校法人 日本大学  
 設計：日本大学理工学部 坪山幸王  
 株式会社 梓設計  
 施工：西松建設株式会社東関東支店  
 所在地：船橋市習志野台7-24-1

『ショーケース』としての多様な実験・実習施設

## 日本大学理工学部テクノスペース15



マルチホールの西側全景（撮影 平井広之）

この作品は景観の部で表彰すべきか、あるいは環境の部で表彰すべきか議論があった。そのいずれにせよ、建築文化賞に値する力作であったことには誰も異存はなかった。

外部に開放するコンセプトに貫かれた大学の施設としても、あるいはその構造・環境技術的な先進性や優れたデザイン性においても、それほど応募作品の中で出色の作品であった。

大学のあり方が大きく変わることを求められている。それは本来の研究教育はもとより、その根本は社会に対する関係性を開くことであり、立地する地域に対して能動的に貢献することである。

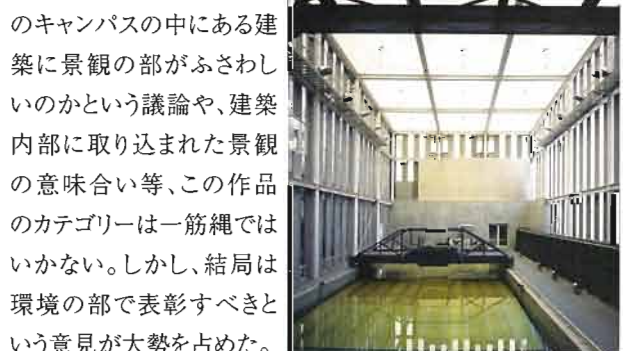
この作品を特徴づける軽さや開放性は、単なる意匠上のファッションの類ではなく、建築の資源性に対する洞察から発した合理的な構造形態を追求した結果である。理工学部の実験・実習施設という閉じた学校棟屋のイメージが、ここでは軽やかでおおらかな曲率を描く膜とガラススクリーンによって見事にくつがえされ、そして開かれた。

コンセプトの建築的な表現は、たとえば夜間の美しい環境的な景観の創造をも生み出したのである。

こうして作者の意図と力は、環境的な課題やユニバーサルデザインなどといった社会の要請にも誠実にこたえながら、大学の施設として稀有な空間を作りだした。従来の閉じた大学



海洋建築水槽実験室内部  
 ◀コンコース  
 レクチャーホール側内観



のキャンパスの中にある建築に景観の部がふさわしいのかという議論や、建築内部に取り込まれた景観の意味合い等、この作品のカテゴリーは一筋縄ではいかない。しかし、結局は環境の部で表彰すべきという意見が大勢を占めた。

こうした議論そのものが、本作品の持つ価値の多重性を示しているといえるだろう。

（岩村和夫）



# 建築文化賞

環境に配慮した建築物

魅力ある空間をもつ木造建築のモデル

## 木と住まいの情報館 モクイチ

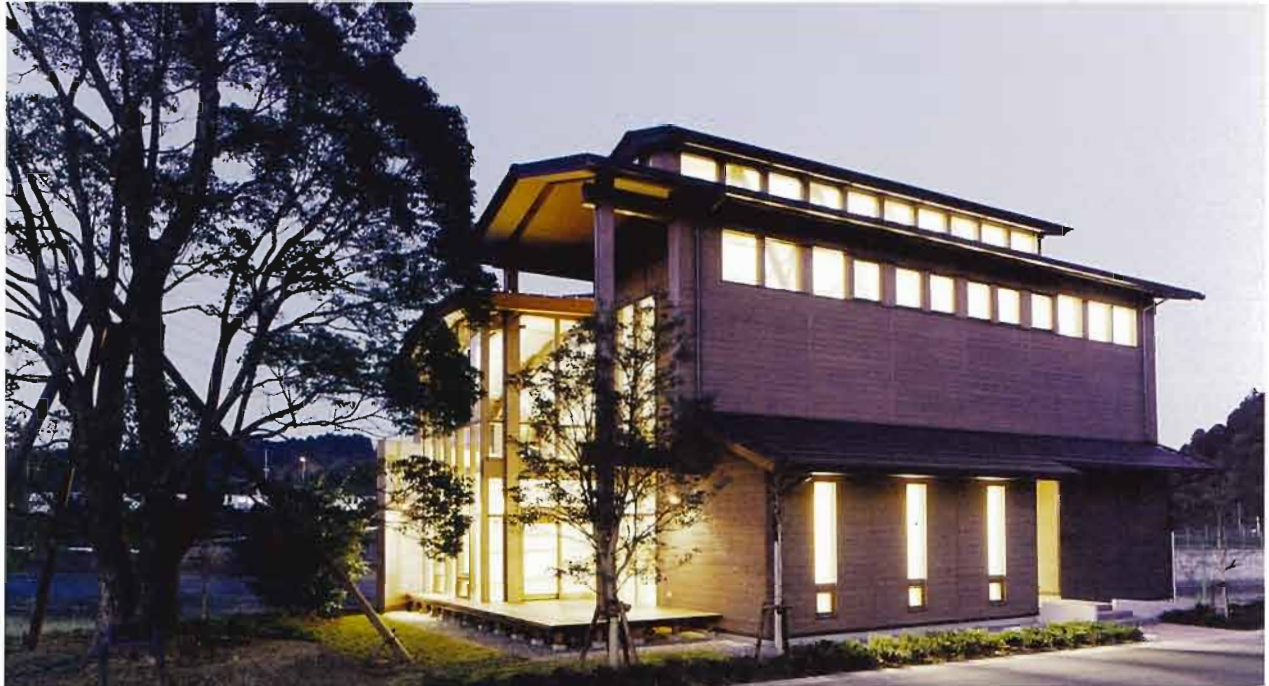
建築主：千葉県木材市場協同組合

設計：株式会社 アルセッド建築研究所

施工：古谷建設株式会社（共同企業体）

吉岡建設株式会社（共同企業体）

所在地：東金市山田800



▲南西側夕景 アプローチ側から建物全体をみる（撮影 中尾研二）

「日本的な当たり前の建物のつくりかたが、現代では難しいことになっています。」

木が一番：[モクイチ]のパンフレットの一文である。

地元の材料を使い、地元の大工が、地元の風土に合った建物をつくる、本当はこんな単純なことが、もっともエコロジーなことなのである。

[モクイチ]のある東金一帯は[山武杉]とよばれる美しい木肌の杉の産地でもある。地元の間人は吉野杉にだって負けないくらいに思っている。しかし、近年、その素材を生かした建築をそのあたりでみるのが少なくなった。

木と住まいの情報館[モクイチ]はその山武杉を架構に存分に使い、しかも金物をできるだけ使わず、木の材料としての資質をうまく利用した建築である。接合部に鉄板を用いた一般的な木造トラスでは組み立てや建て方はとびが行うが、従来の接合方法を用いた[モクイチ]ではすべてを棟梁が行う。材だけでなく、誰が作るかということもここでは重要なテーマである。

ここで利用されている杉材は、木材の中でも軽いため、架構に適さないとされてきた。しかし、設計者の深い木構造への理解と手堅い手法によって、従来の木造の可能性を広げた。伸びやかでそれでいて昔の寺院の庫裏を思わせるような懐かしさを併せもつ建築になっている。

ここに込められた環境への配慮や価値観、そして木造の可能性を開く技術をどう多くの人たちの共有できる財産にしていけるのか、この建築はそうした問題提起と読み取ることもできる。

（篠原聡子）

シンボルツリーに面して▶  
内外をつなぐ大開口部

▼木造トラスと貫構法の構成





## 建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

伝統の美にこだわる町屋の改築

# 佐原の家

建築主：亀村 俊二  
設計：株式会社 樹設計事務所  
施工：高木 祥光  
所在地：佐原市佐原イ3840

川の流れる街・香取街道沿いには歴史の匂いがたただよう。水郷佐原はかつて水路に利を得て栄えた面影を、利根川に注いで街の中央を流れる小野川河岸の船着場と、大店の軒をつらねる瓦屋根の風景に残している。このあたりは、重要な伝統的建造物群保存地区と景観形成地区の指定を受け、〔佐原の家〕亀村木材(株)もその一画にある。

施主であるご当主は4代目、家並みへの調和は街づくりへの参加、家業に関わる木材建築の粋に対する心意気、そして現代生活への配慮も大きなテーマであったはずだ。

二階建て建物改修の対象は、店舗を主とした表半分で、木材置き場が敷地奥のため入り口は横手にあり、通り沿いには明かりとり連絡格子の障子戸にガラス戸が重なり、その手前に南天の植え込みがあって町家の風情を演出している。

間取りの都合で二階に張り出した押し入れの背面が、うまく活用された看板位置、制作店探しに苦労したという金文字や、菱形に盛り上げた

漆喰の家紋が家並みに存在感を与えている。屋内に見る床張りの檜一枚板、黒く太い柿の床柱、黒炭塗りの戸ぶすまと壁、銘木と木組みの巧みさは設計者に当を得た。

水郷といえば九州柳川、小江戸では川越が引き合いにされる佐原に、いずれにも勝る生きた伝統の継承を期待したい。

(野口瑠璃)

▼ 小野川畔からの全景 (撮影 垂見孔士)

▼ 座敷と床の間



建築主：君津市  
設計：有限会社 荒井設計事務所  
施工：ヤマダ建設株式会社  
株式会社相川精機君津支店  
所在地：君津市根本地先

## 建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

斜面緑地や広場と一体化した公園施設

# かずさ4号公園レストコーナー・トイレ

かずさアカデミアパークの最標高地に位置する4号公園の内側に、小粒だがおしゃれなレストコーナーを備えたトイレが出現した。

円形のモニュメント広場の中央を中心点として、展望台の斜面緑地の法麓に同心状の円弧を描き、そこに擁壁を兼ねたコンクリートウォールを設け、その基盤上に3つのトイレブースとレストコーナーが配置されている。

トイレブースの壁面を乳白色のガラスブロックで構成し、屋根をステンレス鋼板で葺いている。日中は照明なしでも明るく、外部の人の気配も感じとれ、夜間にはガラスブロックを通して、柔らかな光が浮かび上がって幻想的である。

架構はコルテン鋼を使用し、上部にステンレスワイヤーを張ってフジ棚とし、擁壁にもツタを這わせて緑化している。

要所に、自然石貼りの目隠しと風よけを兼ねた上品な穴あきの壁が配置され、自然素材とメタリックな金属材及びガラスブロック、コンクリートとの構成の巧みさなど、全体として神経の行き届いた労作といえる。

擁壁とパーゴラが緑で覆われ、背後の斜面緑地のサツキ

が満開になるころ、再度訪れてみたいものである。

地域で頑張っている設計者のひたむきな努力に対して心からエールをおくりたい。

(明智克夫)



アプローチから・夏  
(撮影 荒井裕三)

光の箱のトイレブース



## 建築文化奨励賞

高齢者・障害者等に配慮した建築物景観に配慮した建築物

バリアフリーで安心感のある健康住宅

# 中庭の家

勝郎は、新しい街づくりが始まった分譲地に、障害をもった息子さんと、そろそろご自身の老後の暮らしを考えはじめたご夫妻が、ともに在宅で充実した暮らしを継続したいと造られた。敷地面積335.74m<sup>2</sup>、延床面積190.29m<sup>2</sup>、平屋。「家づくりは3度目」という、普請道楽ともいえる勝さん夫妻と、その夢の実現に向けて協力する建築家の、共に楽しみながらの家づくりの様子が随所にうかがえる、心地よい住宅である。

縦格子で視線をさえぎられた玄関扉を開けると、そこは別世界。自然素材で構成された室内は、中庭をも取り込んで、家全体がひとつになった、明るく開放的な大空間である。

十分な採光と通風は勿論のこと、居ながらにして、自然のすべてを感ずることができるよう、巧みな配慮がされている。

バリアフリーへの対応は、さりげなく最小限にとどめ、状況の変化に柔軟に対応できるように、要所に十分な広さが確保されている。現在は、外部に向けてむしろ閉鎖的にも見えるこの家が、地域に融合し、これからのユニバーサルな街づくりに、積極的に影響を与えてくれることに期待したい。(夏目幸子)

建築主：勝 政雄

設計：株式会社 UCA・都市・建築設計事務所

施工：有限会社 篠崎工務店

所在地：君津市常代1-15-25



▲南側からの全景  
手前に車寄せと庭  
奥がコートハウス  
(撮影 栗原写真事務所)  
◀玄関ホールから中庭を見る

## 建築文化奨励賞

環境に配慮した建築物

自然エネルギーを活用する木造の園舎

# 麗澤幼稚園

麗澤幼稚園は、定員160名の私立の幼稚園だ。廣池学園(麗澤大学、麗澤中学・高等学校)の広大なキャンパス内にあり、地域にも開かれた緑豊かな恵まれた環境のなかに位置している。

園舎は、木造平屋建で、床延面積は1545.66m<sup>2</sup>。シンボリックな木造ドームの遊戯室を中心に、保育室は大きく両翼を広げて園庭を抱えこむように配置され、守られたやすらぎの空間を創りだしている。

大規模な木造建築でありながら、鉄と木のハイブリットな架構方式を取り入れ、子どもたちが生活する場として、その巨大さを感じさせないよう細やかな配慮がされて、安心して生き生きと活動できる空間を創り出している。

南面する大屋根を利用してOMソーラーシステムを導入し、冬には太陽熱を、夏には夜間の冷気を取り込み、四季を通じて快適な室内環境を作りあげている。心地よい室内環境で、各保育室の間仕切りは撤去でき、将来大空間での多様な授業形式を可能にし、遊戯室の仕切りを取り除くことにより「室内の園庭」として遊びの広場の出現も可能にしている。

建築主：学校法人 廣池学園

設計：株式会社 集工舎建築都市デザイン研究所  
近角建築設計事務所

施工：清水建設株式会社千葉支店

所在地：柏市光ヶ丘2-1-1



▲アプローチからの全景 (撮影 新写真工房)

仕上げ材料は、内外装ともに化学物質の使用は避けて天然材料を採用、園児の健康への配慮も重視している。

「人を育む環境としての建築空間」として、気配りのいき届いたやさしい作品である。

(夏目幸子)



◀木の集成材を用いた遊戯室のドーム天井



# 応募(推薦)建築物一覧(地域・市町村別) (55作品) 【◎表彰の対象となったもの ◎現地調査の対象となったもの】

(惜しくも選にもれた建築物にも、それぞれ優れた配慮や特長がありました。)  
携わられた方々に敬意を表し、ますますの御活躍を期待しています。

[千葉市内]		[印旛地域]	
◎ 幕張ベイタウン・コア	美浜区	◎ 成田市保健福祉館	成田市
クリニック/ハウスN	美浜区	成田市立成田西中学校(改築)	成田市
特別養護老人ホーム 桐花園	花見川区	東京電機大学千葉ニュータウンキャンパス	印西市
ホンダ モートピア稲毛	稲毛区	白井市保健福祉センター	白井市
千葉市中央図書館・生涯学習センター	中央区	千葉NTいには野 一般分譲住宅	印旛村
千葉市郷土博物館	中央区	四街道市立中央保育所	四街道市
オーベル千葉ステイト	中央区	富里市立向台幼稚園	本埜村
三橋恒夫宅	中央区		
千葉トヨタ加曾利店	若葉区		
藤田邸	若葉区		
(財)日本海事協会情報センター	緑区		
[千葉地域]		[香取地域]	
新井クリニック	八千代市	◎ 佐原の家	佐原市
花咲の家	習志野市		
大久保のアトリエ	習志野市		
ちはら台の家	市原市		
[東葛飾地域]		[海匝地域]	
◎ 日本大学理工学部テクノブレース15	船橋市	銚子市市民センター	銚子市
特別養護老人ホーム 朋松苑	船橋市		
◎ 船橋北病院 作業療法棟	船橋市		
キチム津田沼&レストランマッセリア	船橋市		
第12花園ビル	船橋市		
松ヶ丘の家	船橋市		
さたクリニック	市川市		
浦安市健康センター・郷土博物館	浦安市		
浦安市立高洲保育園	浦安市		
ラプラス アンソレイユ館(店舗・住宅)	松戸市		
岡本硝子(株)本社第4工場	柏市		
◎ 麗澤幼稚園	柏市		
我孫子市生涯学習センター アビスタ	我孫子市		
鎌ヶ谷市東部学習センター	鎌ヶ谷市		
◎ 鈴木幸夫邸(沼南・白砂の家)	沼南町		
		[山武地域]	
		◎ 東金市保健福祉センター	東金市
		東金市総合体育館(東金アリーナ)	東金市
		◎ 木と住まいの情報館 モクイチ	東金市
		◎ 山武みどり学園(知的障害更正施設)	大網白里町
		あさひ保育園2	大網白里町
		[長生地域]	
		茂原市茂原中学校	茂原市
		ソート 風の蔵	長柄町
		[夷隅地域]	
		勝浦の邸	勝浦市
		House-11(ベニア三角格子)	岬町
		[安房地域]	
		館山市立神余小学校	館山市
		千倉町立七浦小学校	千倉町
		[君津地域]	
		◎ かずさ4号公園レストコーナー・トイレ	君津市
		K-SALON	君津市
		◎ 中庭の家	君津市
		トヨタビスタ南千葉 袖ヶ浦店	袖ヶ浦市
		袖ヶ浦消防消防署 平川分署	袖ヶ浦市

## 千葉県建築文化賞選考委員会

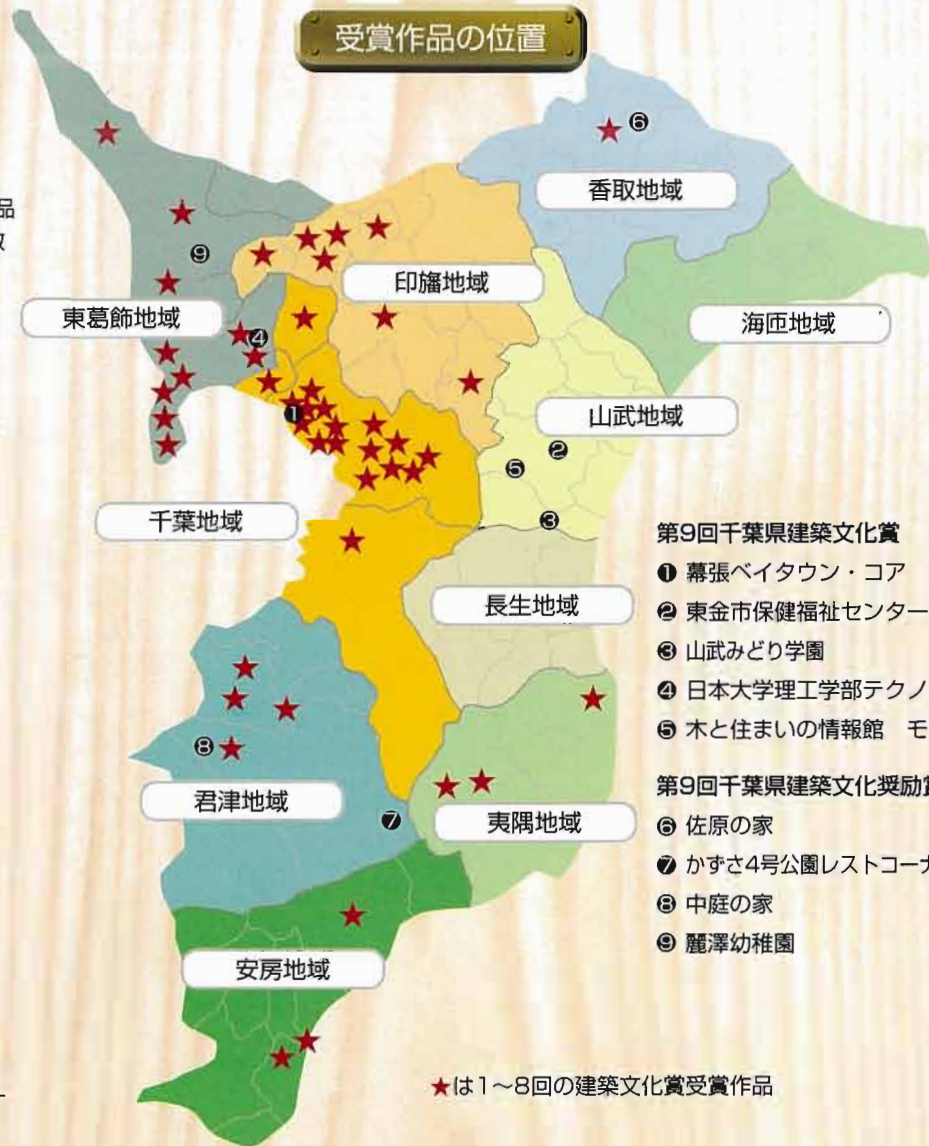
- 委員長 北原 理雄：千葉大学工学部教授  
 副委員長 岩村 和夫：武蔵工業大学環境情報学部教授  
 委員 明智 克夫：(社)千葉県建築士会会長  
 委員 篠原 聡子：日本女子大学家政学部助教授  
 委員 夏目 幸子：建築家、千葉県医療技術大学校講師  
 委員 野口 瑠璃：環境デザイナー  
 委員 梅田 勝：千葉県健康福祉部長  
 委員 武間 豊夫：千葉県都市部長
- 【敬称略 委員は五十音順】



## 受賞作品の位置

### 建築文化賞受賞作品 所在市町村別の数

千葉市	15
船橋市	3
印西市	3
木更津市	3
市川市	2
浦安市	2
東金市	2
大多喜町	2
千倉町	2
習志野市	1
八千代市	1
市原市	1
松戸市	1
柏市	1
野田市	1
佐倉市	1
八街市	1
白井市	1
本埜村	1
佐原市	1
大網白里町	1
岬町	1
鴨川市	1
君津市	1
計	49



### 第9回千葉県建築文化賞

- ① 幕張ベイタウン・コア
- ② 東金市保健福祉センター
- ③ 山武みどり学園
- ④ 日本大学理工学部テクノスペース15
- ⑤ 木と住まいの情報館 モクイチ

### 第9回千葉県建築文化奨励賞

- ⑥ 佐原の家
- ⑦ かずさ4号公園レストコーナー・トイレ
- ⑧ 中庭の家
- ⑨ 麗澤幼稚園

★は1～8回の建築文化賞受賞作品

## 千葉県建築文化賞の実績（応募点数・受賞作品数）一覧

第 回	年	応募総数	建 築 文 化 賞				建築文化 奨励賞
			景観に配慮	高齢者・障害者等に配慮	環境に配慮	計	
1	1994	192	3	3	-	6	-
2	1995	73	3	3	-	6	-
3	1996	83	3	2	-	5	4
4	1997	87	4	1	-	5	5
5	1998	106	2	0	2	4	5
6	1999	101	2	2	2	6	3
7	2000	63	3	1	2	6	4
8	2001	88	2	2	2	6	2
9	2002	71	2	1	2	5	4
1～9	計	864	24	15	10	49	27

※1) 「環境に配慮した建築物の部」は第5回に創設した。 ※2) 「建築文化奨励賞」は第3回に創設した。

千葉県建築文化賞は、多くの方々の協力にささえられ、回を重ねてまいりました。その間、県下の広い地域にわたり、49の建築文化賞が受賞されそれぞれの地域に根づいています。

千葉県建築文化賞はこれからも続けてまいります。

第10回の作品募集は、平成15年夏に行う予定です、皆様のご応募をお待ちしております。

終わりに、関係いただきました皆様に感謝し、改めてお礼申し上げます。

### お問い合わせ先

千葉県都市部建築指導課  
〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1  
TEL.043(223)3186 FAX.043(225)0913

社団法人 千葉県建築士会  
〒260-0854 千葉市中央区長洲2-12-25  
TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101